

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.2 2007.7.15

菊水福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX011-887-7006



福まち通信

豊平川ウォーク

澄みわたった青空の下 80 人が豊平川河川敷を歩く

地域住民の健康づくりと環境美化活動の一環として、「豊平川岸を歩いてみませんか」が、6月6日素晴らしい晴天の下開催されました。これは例年菊水地区健康づくり実践会と菊水連協女性部が主催し、開催されているもので、豊平川河川敷に場所を移してから今年で三年目になります。



上 ゴミ袋を手に出発 右上 開会式での女性部長挨拶 右中央 まちセン所長の挨拶 右下 出発準備

午前10時、水穂大橋の下で行われた開会式では、竹内女性部長の挨拶から始まり、いつもの山田さんから「無理なく楽しく歩きましょう」とアドバイスがありました。

10時半、高齢者を含む参加者80名は、ゴミの袋を手に手にゆっくりと出発しました。

まもなく一条橋を過ぎ、水道専用橋の下をくぐると対岸の景色は近代的なビル群に変わってきます。ここで河川敷の幅に沿って参加者の姿は縦と横に膨らんでいきます。

豊平橋を越える頃には、先頭と最後尾との距離は二百メートル以上離れます。親しい友人や町内会同士のグループに分かれて談笑しながらゆっくりと歩を進めていきます。融雪期の川は川幅一杯の水をたたえ、どうどうと音を立てて流れています。河川敷の緑は目にしみるように輝いています。うっすらと汗ばんできた肌にそよ風が優しく流れます。

七条橋を過ぎ九条橋の見えるところが丁度中間地点になります。ホテル群や高層マンショ



ンの向こうに、新緑に包まれ山肌がかすんで見える藻岩山が顔を出します。

九条橋からゴールの幌平橋は、このコース最大の距離となっています。疲れを覚え長く伸びきった参加者の列に優しく語り掛けるようにライラックの花が待ち受けていました。もうここまで来ると特徴のある幌平橋の姿が大きくなってきます。ゴミの袋もだいぶ膨らんできました。



丁度一時間。ゴールの幌平橋下に到着します。拾い集めたゴミはゴミ袋10袋にもなりました。河川敷は見かけは綺麗に整備され清掃も行き届いて見えますが、これだけのゴミが散乱していたのかと、公德心の欠如に改めて驚くばかりです。

全員が到着した後、竹内女性部長のご

挨拶で現地解散しました。その後は、思い思いに帰宅する人、用意してきたお弁当を広げて歓談する人などに分かれて余韻を楽しみました。



今年も参加しました



高齢者ふれあい交流会

午前10時続々と集まる地域の高齢者約120人を前に、真鍋地区社協会長の挨拶で会は始まりました。その後、去年から引き続き参加を戴いている白石区長からも激励の言葉がありました。

最初に、地域包括支援センターの保健師さんらによる転倒予防のおはな



し。続いて、白石区保健福祉課の保健師さんによるリフレッシュ体操、最後に介護予防センター菊水の看護師さんらによる認知症にならないための手指運動やゲームの指導が行われました。参加者の皆さんは熱心に聞き入ったり、楽しそうに体を動かしていました。

平成19年6月29日。菊水地区会館で恒例となった福祉のまち推進センター主催による「高齢者ふれあい交流会」を開催しました。

これは、日頃閉じこもりがちな高齢者の方たちに、外出の機会をつくって地域の人々や社会との交流を増やしてもらおうと、区・地区社会福祉協議会や共同募金会のご支援の下に実施しているものです。



真鍋菊水地区社協会長の挨拶

し。続いて、白石区保健福祉課の保健



その後、白石消防署菊水出張所の消防士さんたちによる住宅用火災警報機の話や人命救助の実技指導が行われました。

それが終わると、別室に



ていました。

また健康・相談コーナーでは血圧測定や医療・福祉の相談に真剣に耳を傾けていました。



おこわと味噌汁に舌鼓を打っていました。参加していた白石区長も、その美味しさに思わずお代わりをしたそうです。

設けた折り紙コーナー・囲碁コーナーにそれぞれ分かれて参加し楽しみました。折り紙は一番人気があり、小さな籠を懸命に作っ



ていました。昼食タイムでは、地域の女性たちの手づくりの山菜



ボランティア大活躍

午後からは、ショータイムです。出演していただいたのは厚別区の「南京玉すだれ同好会」の皆さんと、手稲区の「稲積公園西ふれあい友の会」の皆さんです。

この二つのグループは地域や老人ホームなどで公演活動を行っているボランティアの団体なのです。

南京玉すだれ同好会は、



10年前代表の飯塚さんがその魅力に引き付けられ始められたもので、今では会員は10名以上になっているとききます。明るい衣

装とりズミカルな掛け声に、観客からは手拍子と歓声が沸きあがりました。

ふれあい友の会の皆さんは、去年のこのふれあい交流会に出演して頂いた金田一さんのお弟



子さんたちで、老人クラブの活動の一環として「皿回し」を趣味としているグループです。最高年齢85歳、平均年齢68歳という元気な人たちです。

綱渡りをしながら傘の上の皿を回したり、小さな三輪車に乗

りながらの演技などを見せてくれました。皿がうまく回らないときもありましたが、かえってご愛嬌で観客から激励の声が掛けられます。舞



台を降りて長い竿の先の皿を回したり、フィナーレでは鍋のふたや終いに座布団が回りだすと大歓声が沸きあ



がりました。

二つのグループとも素人の演技でしたが、かえってそれが観客の皆さんに好感を持って受け入れられたようです。

会の準備に活躍したボランティア

ふれあい交流会の準備や当日の運営にボランティアが30名ほど活躍しています。前の日の午後から会場の設営や



名札の準備に町内会の役員さんら、昼食の下ごしらえなどに汗を流した日赤奉仕団や女性民生委員さんらが活躍しました。

当日は参加者の受付に女

性部の役員さんらが、司会・進行、会場の模様替えに福まちの役員さんたちが、昼食の準備や配膳に昨日に引き続き、日赤奉仕団や女性民生委員さんらが頑張ってくださいました。

そ



これらの人たちの表情は、福祉のまちづくりのために働いている誇りと満足感に溢れていました。

細野福まち推進センター運営委員長から、閉会の挨拶で参加者に対するお礼と、ボランティアの方々への慰労の言葉がありました。

ボランティア活動は無償の行為とも言われますが、決してそうではありません。ボランティア活動が受け止められ認められることで、ボランティア自身の満足や、心の安らぎという報酬が得られるのですから。



細野委員長

福まち通信のニックネームである 「よつ葉のクローバー」命名の理由

菊水地区発展の歴史には、三つのエポックがありました。最初の画期的な出来事は、明治35年に近代的畜舎やサイロを持つ宇都宮牧場が出現したことです。昭和2年上野幌に移転するまでの四半世紀、市販牛乳やバターを生産に先駆的な貢献をしました。

二つ目は、大正7年の定山溪鉄道開通に伴う東札幌駅の開設です。後に旧千歳線乗り入れに伴い貨物や物資の一大集積基地が出現しました。このことにより東札幌駅の周りにはいろいろな工場群ができたのです。菊水地区にはゴム会社や定山溪方面から集積する木材の製材工場が多く見られました。そうして、それらの仕事に従事する職人や工員たちが多く住む町となったのです。



宇都宮牧場

上野幌にある宇都宮牧場の模型（昭和2年撮影）

三つ目は大正7年薄野から移設された白石遊郭です。昭和33年売春防止法完全実施によりその姿を消すまでの40年間、菊水地区の発展に大きな影響を与えてきたものです。

このように、農業・畜産地区から工業地帯へ、そして第三次産業であるサービス業の台頭という都会化のうねりの中で私たちの地域は変化し発展を遂げてきたのです。どの時代をとっても決して忘れ去ることはできませんが、回顧的にそれらにこだわりすぎることもまた問題です。ともすれば、今までは最後の遊郭時代の暗い影にこだわりすぎてきた嫌いがあるように思います。



北日本ゴム工場

私たちが進めている「福祉のまちづくり」は、いわば第四のエポックメイキングです。推進活動をできるだけ明るいイメージを抱きながら進めていきたいと思っています。そういう思いの結果、牧場の緑と澄み切った青空が浮かび上がりました。そこに自生している雑草のクローバーに庶民の根強い生活力を感じ、よつ葉のクローバーに幸せを求める願いをこめているこの名前を採用することにしました。

また、四つのはっ葉にそれぞれ「見つめ愛」「ふれ愛」「支え愛」「学び愛」というテーマを込めてみました。福祉のまちづくりを進めていく活動方針として、これらの想いを大切にしていきたいと思っています。



白石遊郭